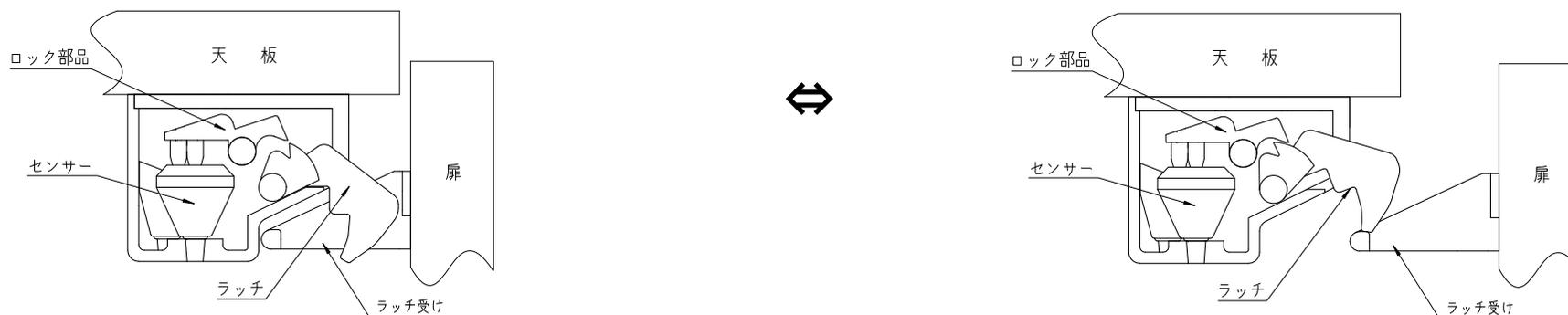


感知式耐震ロック「震護くん」構造図

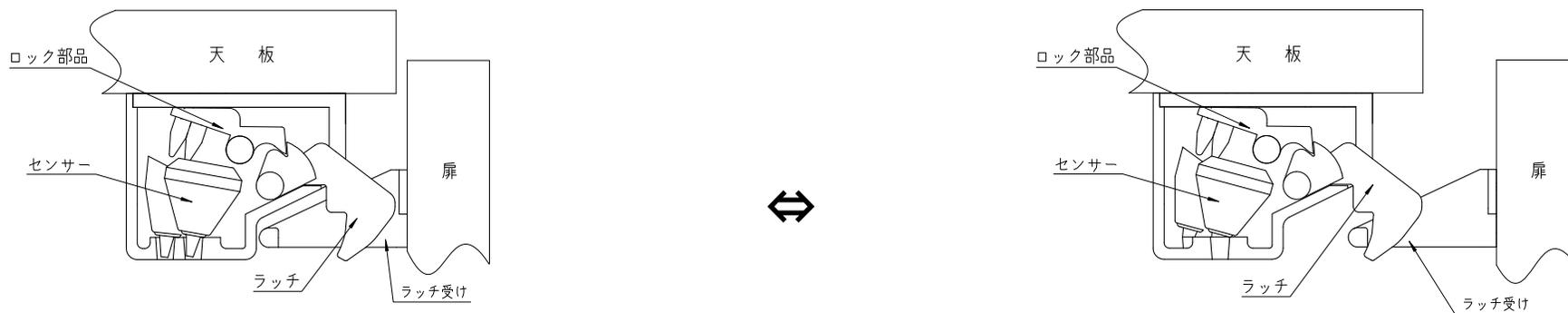
1.通常の扉開閉状態

ラッチはフリーの状態なので扉の開閉は問題なく行えます。



2.地震感知状態

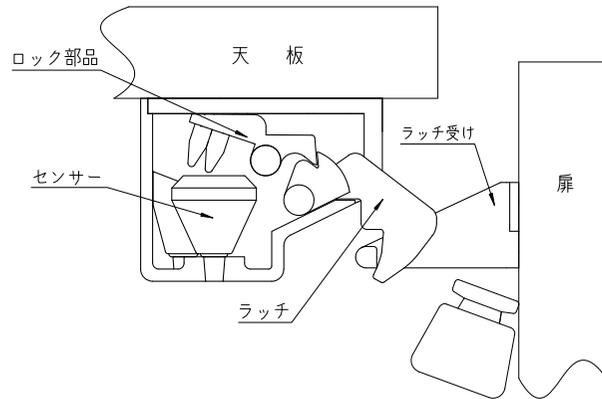
センサーが地震を感知してロック部品でラッチを固定するので扉が閉じた状態で即座にロックされます。



円錐形のセンサー(縦揺れ、横揺れ各 1 個)が揺れを感知すると揺れにより傾きロック部品によりラッチがロックされます。(2. 地震感知状態の図参照)揺れが治まるとセンサーは元の状態に戻るなのでロックは解除となります。(1. 通常の開閉状態の図参照) そのため自動ロック、自動解除となります。この円錐形のセンサーを使用した構造が特許となっています。

3.地震終息後、扉に力が掛かっている状態

地震が終息し震動が収まっても扉に力が掛かっている状態では扉がロックされたままです。



揺れが治まっても扉に落下途中の食器などによる力が掛かっている場合は、センサーが元の状態に戻ってもラッチのロックは解除されません。
(上図を参照)